

「今日も、砂場で海つくろう！」1学期の保育の視点③
 —友だちとの関わりの中で、相手を思いやりながら、自分の意見を伝えること、
 相手の意見を聞くことを経験する—

梅雨とは言え、晴れ間の続いた6月、多くの子どもたちが庭に出て遊んでいました。

ある朝、Aちゃんは、幼稚園に登園して、朝の支度を済ませると、「よし、砂場であそぶぞー」と言って、外に出て行きました。そして、スコップやバケツ、ジョウロ、大きいシャベルなど、使いたい道具を一揃え自分のそばに用意して、早速穴を掘り始めました。するとそこへ後から登園してきた子どもたちも、自分の朝の支度を終えて、「一緒にやってもいい?」「僕も入れて」と集まってきました。

Aちゃんが大きいシャベルでザクザクと掘り始めた穴が、どんどん大きくなっていきます。ある程度大きくなったところで、一緒に穴を掘っていた子どもたちは、今度は水を運び始めました。一、二回水を流すだけでは到底足りません。「おーい、もっと水がいるよー」「どんどん運ぼう」などお互いに声を掛け合いながら、水を汲んできてはザバーッと穴に水を溜めることを繰り返していました。「わぁー、海だ!海!」と言って、子どもたちは水が溜まっていく様子を嬉しそうに眺めています。すると、「うーん、まだもう少し海を大きくできるなあ」と言いながら、Aちゃんは海をさらに深く、広くしていきます。一緒に穴を掘っていたBちゃんは、今度はトンネルに見立てている長い筒を持ってきて、穴の一角に置きました。そして、その筒を固定させようと、泥を筒の上からかぶせていきました。「ここから水を流せるようにしよう!」とBちゃんが言うと、「うん、いいね」と周りの友だちが言います。またCちゃんは、海につながる1本の川をつくり始めました。スコップを持って、川を掘り進めていきます。他にも、Cちゃんがつくる川とは別方向に川をつくる子どもや、トンネルをつくる子どもがいました。どの子どもたちも落ちる汗をぬぐいながら海づくりをしていました。

しばらくして、AちゃんとBちゃんが言い合う声が聞こえてきました。どんどん水を流していきたいAちゃんと、いくつかのバケツやジョウロに水を汲み溜めておいて、一気に流したいBちゃんが、それぞれ自分の思いを言い合っていました。

「どんどん水を流していけば、たくさん水が溜まると思う」

「いや、水を汲んだバケツとジョウロをいっぱい並べて、後でいっぺんに流した方がいい」

「僕はどんどん水、流すから」

「ダメだつてば!ダメダメ!・・・」

あーあ、溜めておいてって言ったのに」

「いいの、いいの」

「もういい!僕、やめた」

Bちゃんが行ってしまいました。Bちゃんは仕方なく、増やし鬼の仲間に加わりました。Aちゃんは、Bちゃんが行ってしまった方を時々見ながら、黙々と水を運んでは流してしまし



た。

15分ほど経った頃、Bちゃんが砂場の様子を少し遠いところから眺めています。Aちゃんも、Bちゃんのことをちらちらと見ます。そして、とうとう「・・・やっぱり、やる」と言ってBちゃんが戻ってきました。Aちゃんは、Bちゃんの姿を見て、ほっとしたように笑い、Bちゃんに言いました。

「今度は、水、いっぱい溜めたバケツとジョウロを並べよう」

「うん」

AちゃんとBちゃんは、自分の思いをぶつけるように伝えていました。結果、一時仲たがいました。しかし、そこまでの友だちとしての関係と、この遊びの楽しさがあったから、気持ちを立て直し、折り合いをつけていったのでしょう。

海づくりをする子どもたちだけでなく、様々なところで、このようなことが起こります。ある時には、保育者が間に入り、お互いの思いを聞き出し、伝え合うことを支えることが必要な場合もあります。子どもたちは、そのような経験の中で、友だちとの関わり合うことの難しさを感じたり、喜びや楽しさを感じ、共に過ごすことを学んでいます。

礼拝より

1学期の保育の視点①より

—毎週の礼拝を通して、神さまの愛と、

復活されたイエスさまが一人ひとりと共にいてくださることを知る—

週の始まりの朝、子どもたちと共に礼拝を守っています。この6月までの間に、主に旧約聖書からお話をしました。今は、6月23日から3回に分けて、「ヨセフ物語」（旧約聖書創世記37章～50章より）を礼拝の中で語っています。

『ヨセフは、他人の夢を解き明かす力を、神から与えられていました。父親のヤコブから、特にかわいがられて成長しますが、そんなヨセフは兄たちからは、疎まれていました。ある日、ヨセフは兄たちを前に、自分が兄たちの頂点に立つ夢を見たことを語りました。それを聞いた兄たちは、我慢ができなくなり、ヨセフを穴に落としてしまいます。やがて、その傍を通ったミデヤン人に売られ、そこからエジプトに渡りました。ヨセフは、あることがきっかけで、夢を解き明かす能力が王に知られ、王が見た夢についても解き明かすこととなりました。そして、それが王に認められました。王の見た夢を、ヨセフが解き明かした通り、エジプトの国は、大豊作の後に大飢饉が起きますが、それは、ヨセフの父や兄たちが住む地まで及びました。ある日、兄たちがヨセフの元へ食料を買いにやってきます。兄弟たちは、大臣がヨセフであることに気が付きませんでした。ヨセフはすぐに兄弟であることに気がつきました。ヨセフはあることで兄たちの誠意を試しますが、兄たちはその誠意に応えます。そこでヨセフは、自らのことを明かし、兄弟たちと和解をします。』

このヨセフ物語から、子どもたちと共に、神さまに従うこと、神さまがいつも共にいてくださること、神さまが良い道を備えてくださること、そして愛し祝福していてくださることを聞きたいと思っています。

子どもたちは、保育者のメッセージを真剣な表情で、そしてまっすぐな瞳を向けて聞いています。私たちは、そんな子どもたちの姿を思い浮かべながらメッセージの準備をし

す。神さま・イエスさまの御心を伝えることの大切さを思います。また、聞く子どもたち一人ひとりに神さまがはたらいてくださっていることを感じます。

引き続き、神さまに感謝すること、祈ること、賛美することを大切にしながら、過ごしていきたいと思っています。

(佐々木 花)